

〔ミニラグビーに携わる全ての皆様へ〕 (コーチ・レフリー・応援者)

1. ミニラグビーとは・競技規則制定の前提

ミニラグビーとは、ラグビーフットボールの魅力を広く普及するために作られた、幼児・児童のためのラグビー型ボールゲームです。競技規則は、これをプレーする人たちが幼児や児童（以下子ども）である、という前提に立って制定されています。

2. ミニラグビーでの最優先事項「安全」について

以下の点に留意して、子どもが安全にプレーできる環境を整えてください。

(1) 子どもの年齢、体力や発達段階、天候、グラウンドコンディション等を考慮した練習・試合を計画、実施してください（特に練習や試合での水分補給については十分に注意を払うこと）。

(2) ラグビーの魅力の一つとしてコンタクトプレーを挙げる人も少なくありません。しかし、それはプレーヤーの安全性が保証された上で初めて「魅力」と呼べるものです。怪我をする、あるいは相手に怪我をさせる危険性を承知の上でプレーする、させるなどという事態があってはなりません。

特にミニラグビーに携わる大人は、怪我を誘発させるような行為・態度（たとえば、頭を下げて相手とコンタクトする、無防備な体勢でいる相手・体格差のある相手を力任せに突き飛ばす等）に関しては敏感であるべきです。ミニラグビーをプレーしたがために、子どもたちの将来が損なわれることはあってはなりません。仮にそのような事態が生じた場合、ラグビーそのものの存在も危うくなるでしょう。プレーヤーの安全確保は最優先事項であり、大人は、子どもたちの安全を保証した上でラグビーをプレーさせる義務があります。

①タックルやモール、ラック等コンタクトを伴うプレーを指導する際には、子どもの発達段階を踏まえた上で、コンタクト時の正しい姿勢を徹底させるとともに、スキル等の指導を十分に行ってください。

②同時に、コンタクトプレーを行う際には、自分だけでなく、相手の安全の確保も大切であることをあわせて指導してください。

(3) 指導者は積極的に安全対策講習に参加する、試合でレフリーを行った際に他の指導者と試合中のプレーの安全性について意見交換を行うなどして、安全対策への意識を高めるよう心がけてください。

3. 用具について

スパイクを使用する場合、プレーヤー及び指導者の靴底は非金属製の固定式スタッド及びブレードタイプのものとします。取替え式スタッドの使用は禁止します。

4. 指導者（コーチ・レフリー）の態度について

ミニラグビーは、ラグビーの普及を第一のねらいとして行われるものです。指導にあたっては、「Fight（闘志）」「Friendship（友情）」「Fair play（正しいプレー）」（以上「3F」）のコンセプトが具現化できるように指導・試合計画を立案するとともに、次に挙げるような、ラグビーの魅力・独自性を、練習や試合を通して子どもたちに体験させてあげてください。

- あらゆる体型、サイズ、能力、スキルを持つプレーヤーが参加できる。
- ボールをもって走る、パスする、キックするなど、多彩なプレーが見られる。
- プレーヤー自身がラグビー精神を理解し、フェアプレーの精神に則ってプレーを展開する。
- プレーヤー・コーチがレフリーの判定を尊重し、レフリーもプレーヤー・コーチに対し敬意を払っている。また、プレーだけでなく、「On Sideの精神…反則をしない」「No Sideの精神…試合が終わったら相手チーム、味方チームの区別なし」「For the Sideの精神…チームのために」（以上3Side精神）等のラグビー精神、ラグビー文化について、繰り返し指導してください。

5. 『ノーサイドの精神』について

日本ラグビー界で脈々と「ノーサイド」という言葉と精神が守り続けられてきたことが、ラグビー先進国の関係者から高く評価されています。今後も、日本ラグビーの文化を守り続けるためにも、子どもたちに「ノーサイド」のすばらしさを体感させてください。

(1) コーチとして

- ①試合に勝つことだけがミニラグビーをプレーする目的ではありません。
「全てのプレーヤーに全てのスキルを」を念頭に、ラグビーの魅力を体感できるようにしてください。また、「自らを抑制する謙虚な心と思いやり」をもったプレーヤーを育ててください。
- ②子どもは大人とは異なった身体的特性・精神的特性を持っています。指導に当たっては、自分の経験からだけではなく、プレーヤーの年齢や心理的、身体的発達特性を理解した上で、その時期に適した練習方法を計画してください。
- ③小学生やその保護者にとって、コーチはラグビー精神の具現者です。
 - レフリーに対して
 - オフィシャルに対して
 - 全てのプレーヤーに対して
 - ラグビーに対して
 どのように振る舞うのが正しいのかを態度・行動によって示してください。

- ④ミニラグビーの良いプレーは、コーチとプレーヤー、レフリーが一体となって作り上げてください。よいコーチは良い（ミニラグビーの）レフリーになれる可能性があります。どちらも体験してラグビーに関する知見を広げてください。
 - ⑤試合が終わったら、必ず相手チームのコーチ、レフリーと、危険なプレー、好ましいプレー等について、共通の認識が持てるよう意見交換をしてください。
 - ⑥試合後に子どもたちの交流がもたれている例は多くありません。「ノーサイドの精神」を養うためにも、簡単なアフターマッチファンクションやキャプテンのスピーチなどを実施し、相手チームとの友情を深める場を設けるようにしてください。
 - ⑦応援する保護者にも、ラグビーのプレーの魅力と独自の文化を広めていってください。特に、自分のチームだけでなく、相手チームのよいプレーについても拍手を送る、あるいは、相手の失敗を喜んだりしない、といった応援のマナーもラグビーの一部であることについては、機会あるごとにすべての保護者に伝えていただきたく思います。
- (2) レフリー、タッチジャッジとして
- ①子どもたちが楽しく・正しくラグビーをプレーできる環境を作るのがミニラグビーのレフリーの役割です。したがって、ゲーム中の事実を判定するだけではなく、ミニラグビー指導者としての立場が要求されることを認識してください。
 - ②レフリー・タッチジャッジは中立的立場であり、どちらのチームに対しても助言等をしてはいけません。（危険なプレー、オフサイド等の反則を予防する為の指導は除きます）。プレーヤーに戦術的・戦略的な助言はできませんが、建設的な、良いプレーをしてもらうための声かけは必要です。短く、分かりやすい言葉をかけてあげて、子どもたちがプレーを継続できるようにしてあげましょう。
 - ③ハーフタイムは、ハーフウェイライン付近にとどまるよう努めてください。試合が始まったら、コーチではなくレフリー、タッチジャッジとしての行動を優先しましょう。
 - ④プレーヤーに敬意を表するためにも、清潔でレフリーにふさわしい服装、毅然とした態度、親しみやすい言葉遣いと表情を意識してください。
 - ⑤ノーサイドを宣した後、双方のチームに対し、意欲を喚起するような励ましの言葉をかけてあげてください。
 - ⑥試合後は、必ず双方のコーチと危険なプレー、好ましいプレー等について、共通の認識が持てるよう意見交換をしてください。

6. 応援者として

- (1) 自分のお子さんや、自分のチームのプレーヤーへの声援はもちろんです

が、相手チームのよいプレーについて賞賛してあげてください。

- (2) プレーヤーやレフリーへの暴言は厳に慎んでください。また、相手の失敗を嘲笑したり、自分のチームのプレーヤーの失敗を罵ったりすることはあってはなりません。もし、そのような方がいらしたら、周りの皆さんが注意をしてあげてください。

第三部 U-12 ミニラグビー競技規則 JAPAN RUGBY FOOTBALL UNION 2018

はじめに

本年度、日本ラグビーフットボール協会（以下『日本協会』とする。）では7歳 - 12歳時期（以下『U-12』という。）の小学生プレーヤーに適用する、『U-12 ミニラグビー競技規則』を改定しました。

ミニラグビー競技規則制定に対する背景・趣旨

ミニラグビーは小学生以下の子ども達を対象としたラグビー型のボールゲームです。本競技規則は子ども達の年齢や発育段階を鑑みて、安全の確保を第一に考え、子ども達がより安全に・よりラグビーの魅力を感じてもらえるミニラグビーを実現する事を目的としています。また、ラグビーを知らない子どもや、ラグビー経験者ではない指導者などに対しても理解のしやすい競技規則の制定を目指しています。

本競技規則は以上の目的を大前提として考え、U-15 ジュニアラグビー競技規則やワールドラグビー（以下『WR』という。）競技規則との整合性を検証しつつ、日本協会独自で制定しています。

本競技規則の記載方法の変更とWR競技規則との相関

U-12 ミニラグビー競技規則は、日本協会独自に制定した条文を記載しているのは従前のおりですが、本年度は項目記号も原則としてWRの競技規則およびU-15 ジュニアラグビー競技規則に準拠しています。

WR競技規則に該当する項目がないため、U-12オリジナルとして追加している条文は、WR競技規則の項目の後のアルファベット記号を使用し、〔Original〕として表記しています。

また、低学年（U-8）、中学年（U-10）、高学年（U-12）と3つのカテゴリーに分け、U-12 ミニラグビー競技規則においてそれぞれ該当する条文を記載しています。

なお、WR競技規則との整合性を持たせるため、U-12 ミニラグビー競技規則の条文番号を、WR競技規則の条文番号に合わせて記載しています。

〔基本原則〕

U-12（12歳以下）の年代の試合に適用するU-12 ミニラグビーの競技規則は、WRが定める競技規則に準拠する。また、日本協会制定の高専・高校以下の為の特別競技規則、『U-15 ジュニアラグビー競技規則』の該当する条項に関してはそ

の趣旨を認識し準拠する。その中でU-12（12歳以下）に適用する独自の競技規則については、本U-12ミニラグビー競技規則において規定する。

低学年（小学校1・2年生：U-8）

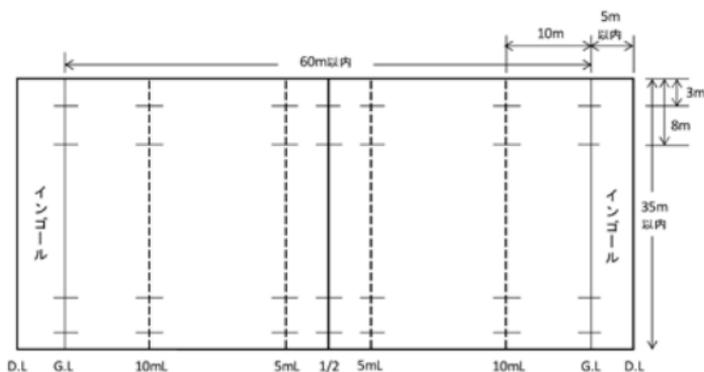
低学年（小学校1・2年生：U-8）の競技規則は、日本協会が制定する“ラグビー競技規則”を適用する。

中学年（小学校3・4年生：U-10）

試合前

第1条 グラウンド

- 競技区域の面積は、グラウンドの図に示されているとおりである。
フィールドオブプレー、及びインゴールの広さは以下のとおりとする。
60メートル以内×35メートル以内、インゴール5メートル以内。



第2条 ボール

- 子どものプレーヤーによる試合は、小型のボールを使用してよい。
3号または4号ボールを使用する。

第3条 チーム

【人数】

1. チームは以下の人数で構成される。【Original】
7人（フォワード3人、ハーフバック1人、バックス3人）
2. 試合主催者は各チーム最大人数未満のプレーヤーによる試合を許可することができる。【Original】
5. 交代/入替えのプレーヤー数は、各主催協会の大会規則に準ずる。【Original】
33. 各協会に適用を委ねられる特別ルールとエージ制カテゴリー 【Original】
三支部協会の事前の承認の下、大会（試合）を主催するか管轄する各協会の決定により、登録プレーヤー、交替人数等について規定（ローカル）することができる。但し、本事項はその地域の実情に合わせて特例として認めるものであり、いかなる場合でもプレーヤーの安全を考慮した決定でなければならない。

第4条 プレーヤーの服装

3. 追加着用を認められているのは、以下のものである。【Original】
 - g. プレーヤーは試合中ヘッドギヤを着用しなければならない。（義務）
 - j. シューズは一体成型ゴム底のもの、ただし鋭い形状の部分や隆起している部分がないものであること、スタッドの取り替えられるものは禁止する。（禁止）

第5条 試合時間

1. 試合時間 【Original】

15分ハーフ以内（1日の試合総時間は原則50分以内とする）
いずれも試合間隔は環境に配慮して十分な休憩時間をとらなければならない。
なお、トーナメントで引き分けの場合でも、試合を延長してはならない。
2. ハーフタイム
ハーフタイム後、サイド交換をする。休憩時間は各協会主催の試合規定に準ずる。
11. その他、試合時間に関する規則 【Original】

1日に複数ゲームを行う場合、大会運営上の支障も考えられるがプレーヤーの健康管理上、プレーヤーが1日にプレーできる時間の上限を設定する。

試合中 試合を行う方法

第8条 得点

1. 得点の方法と点数

- a. トライ、または、ペナルティトライ5点

【トライ】

2. 攻撃側のプレーヤーが、以下の行為をしたらトライとなる

- a. 相手側のインゴールにおいて、最初にボールを相手側のゴールポスト、または、パッドにグラウンディングした。
- b. スクラム、ラック、または、モールがゴールラインに到達したときに、最初にグラウンディングした。
- c. ゴールラインの手前でボールがタックルされ、プレーヤーの勢いでそのまま地面を相手側のインゴールへと進み、プレーヤーがボールをグラウンディングした。
- d. 相手側のゴールライン付近でタックルされ、プレーヤーがすぐに手を伸ばし、ボールをグラウンディングした。
- e. タッチ、または、タッチインゴールにおいてボールを持っていない状態で、相手側のインゴールにあるボールをグラウンディングした。

【コンバージョン、ペナルティゴール、ドロップゴール】【Original】

U-10 カテゴリーはコンバージョン、ペナルティゴール、ドロップゴールを適用しない。

第9条 不正なプレー

30. 危険なプレー、不行跡【Original】

- a. 防御の際に、相手をしっかりバインドせずに振り回す行為。
- b. ボールを持っているプレーヤーをチャージしたり、突き倒したり、あるいはタッチラインの外に突き出したりする行為。
- c. フェンドオフ（腕を横に振り、相手を払い除けるプレー）。
- d. モール・ラックを崩す行為。
- e. 頭部を相手に打ち付けるような姿勢で突進する行為。
- f. 安全が確保できないような体勢でボールを拾う行為。
- g. 相手に怪我をさせるような行為。
- h. 地上にあるオープンボールを相手陣に強く蹴り込む行為。

これらの行為は、実際に起きた場合だけではなく、その危険性が予見されればファウルプレーである。レフリーはアドバンテージを適用することなく速やかに試合を停止する。

判定に対する異議、相手の反則のアピール、相手への礼を失した言動等、スポーツマンシップを損なう行為は厳禁である。

罰： ペナルティキック

31. コーチについて【Original】

- a. 試合中、コーチは定められた区域内に位置し、プレーヤーに対して指導的な指示、助言を行える。ただし、子どもの自主性、判断力養成の観点から、人格を尊重した言葉で指導を行うこと。またレフリーの判定に異議を唱えたりしてはならない。上記のような言動が見られた場合、レフリーは、試合を停止しコーチに注意をする。それでも改善が見られない場合、そのコーチを退場させることができる。この場合の退場とは速やかに競技場を離れることである。
- c. コーチの不行跡により試合が停止した場合、試合再開は、スクラムで行い、プレーの停止が命じられたときにボールを保持していた側がボールを投入する。レフリーはコーチに注意以上の処分を与えた場合、試合終了後速やかに主催者にその旨を報告する。

試合中 フィールドオブプレーについて

第12条 キックオフと試合再開のキック

【タップキックについて】【Original】

- a. ミニラグビーにおけるタップキックは、ボールを地面に置き、手を使わず足だけでボールに明確に触れる事である。
- b. すべてのペナルティにおいて、反則を犯さなかった側はタップキックによってプレーを再開する。その際、相手側は反則のあった地点（または低学年のキックオフ・ドロップアウトの地点）からゴールラインに平行して少なくとも5メートル下がる。

【得点後のキックオフ、および、試合再開のキック】【Original】

- a. キックオフはハーフウェイラインの中央から行う。
- b. 得点後のキックオフは、得点した側のチームがハーフウェイラインの中央、またはその後方から行い、ドロップキックの代わりにパントキック、プレースキックが許される。
- c. キックオフは相手側の5メートルラインに達しなくてはならない。達しなかった場合はハーフウェイライン上中央のスクラムで再開する。ボールの投入はキックをしなかった側が行う。

【タッチダウン後の試合再開のキック】(10m地点でのドロップアウト)

ドロップアウトは10メートルライン上あるいはその後方の任意の地点から行う。

試合中 試合の再開

第18条 タッチ、クイックスロー、およびラインアウト

【クイックスロー】【Original】

クイックスローは認めない。

【キック】【Original】

ダイレクトタッチは10メートルライン内からのみ許される。10メートルラインの外からのキックが直接タッチに出た場合は、キックした地点で相手側にスクラムが与えられる。

【ラインアウトの形成】【Original】

ラインアウトは以下のように行う。なお、ラインアウトにおけるジャンパーに対するサポーティングプレーは禁止とする。

- ボールがタッチになった場合、ラインアウトによって試合を再開する。
- ボール投入は、ボールがタッチになった地点から行う。ただし、ゴールラインから5メートル以内ではラインアウトは行わない。
- ラインアウトに並ぶプレーヤーは1チーム2人である。先頭のプレーヤーはタッチラインから3メートル以内に立ってはならない。最後尾のプレーヤーはタッチラインから8メートルを越えて立ってはならない。
- ボールを投入するプレーヤーの相手は、ラインアウトに近接して、タッチラインから3m以内の位置にいないといけない。
- 双方のプレーヤーの2つのラインの間には明確な空間(1m)がなくてはならない。
- ラインアウトが終了するまで、ラインアウトに参加していないプレーヤーはラインオブタッチから少なくとも5メートルは下がっていないといけない。
- ボールが8mを超えて投げ入れられた場合、投入を再びやり直す。

【ラインアウトの開始と終了】【Original】

- ボールの競い合いはなく、必ずボール投入側がジャンプしてボールを取る。
- ボールを取ったプレーヤーは必ずハーフバックにボールをパスしなくてはならない。
- ハーフバックがボールをパスした時点でラインアウトは終了する。

第19条 スクラム

【スクラムの形成】【Original】

スクラムは以下のように行う。

- a. スクラムはフロントロー3人で形成される。
- b. フロントローのうち、中央のプレーヤーをフッカー、その両側のプレーヤーをプロップという。
- c. フッカーは味方の両プロップの腕の上からその身体に腕をまわして、しっかりとわきの高さか、またはその下をつかまなければいけない（いわゆるフッカーのオーバーパインドの組み方。肩口は脇の高さとは認められない）プロップも同じようにフッカーをつかまなくてはいけない。
- d. スクラムを組み合う際、相対する双方のフロントローと目を見つめさせ、双方のフロントローは左右の足の位置をフラット（前後しない）にして、腰を落とし組み合う準備の姿勢を取らせる。レフリーはこの姿勢を【クラウチ】のコールで確認し、【タッチ】のコールで相手の上腕に軽く触れさせる。【ホールド】のコールで相手をつかんだまま静止状態を維持させ、その後穏やかに組み合う【エンゲージ】。
その際、お互いのフロントローのうち、左プロップは、左手を相手フロントローの右腕の内側に、右プロップは、右手を相手フロントローの左腕の外側になるようにして、相手フロントローのジャージーの背中または脇をつかむ。
- e. すべてのプレーヤーが頭と肩が腰より低くならないようになすすぐ組む。「ノンコンテストスクラム」ではあるが、お互いの体重を支え合うように組まなければならない。
- f. スクラムを形成するプレーヤーは、スクラムが終了するまでバインドしていなければならない。

【スクラムにおけるその他の制限】【Original】

- a. スクラムで、防御側のスクラムオフサイドラインがスクラムより3メートル下がっていることをいいことに、スクラムからボールが出る前に攻撃側のプレーヤーが後方より勢いをつけて走り込み、ハーフバックからフラットなパスを受けて突進を試みるプレーは、ペナルティキックまたはフリーキックにおけるいわゆる「キャバルリー・チャージ」に相当し、競技規則に反するプレーである。

罰： ペナルティキック

- b. ボール投入は行わず、その代わりにあらかじめフッカーの右足元（つま先の前）にボールを保持する。そのボールをフッカーが右足の裏で後方に押し出すことでプレー再開とする。
- c. スクラムが組まれるとオフサイドラインが生じる。
(1) 防御側のバックスのオフサイドラインは、スクラムを組んでいる味方

プレーヤーの一番後方の足から3メートル下がったゴールラインに平行な線である。

- (2) 防御側のハーフバックのオフサイドラインは、スクラムを組んでいる味方プレーヤーの一番後方の足を通りゴールラインに平行な線である。ただし、スクラムから1メートル以上離れるプレーヤーはハーフバックではなく、バックスと見なされる。その場合のオフサイドラインは上記『(1)』が適用される。一旦、『(1)』で定められたオフサイドラインに下がったハーフバックはスクラムが解消されるまで、そのオフサイドラインを超えてプレーすることはできない。
- (3) スクラムにおけるオフサイドの解消は、ボール投入側のハーフバックがボールをパスした時点とする。

第20条 ペナルティキックおよびフリーキック

【ペナルティキックおよびフリーキックが与えられるマークの地点】【Original】

- a. すべてのペナルティにおいて、反則を犯さなかった側は相手側が反則を犯した地点からタップキックによってプレーを再開する。その際、相手側は反則のあった地点からゴールラインに平行して少なくとも5メートル下がる。
- b. 反則の地点が相手側ゴールラインから5メートル以内の場合は、マークは反則の地点を通る線上、ゴールラインから5メートルの地点でタップキックを行う。
- c. フリーキックも同様である。

高学年（小学校5・6年生：U-12）

試合前

第1条 グラウンド

3. 競技区域の面積は、グラウンドの図に示されているとおりである。フィールドオブプレー、及びインゴールの広さは以下のとおりとする。60メートル以内×40メートル以内、インゴール5メートル以内。

だし骨格の発育段階であり、永久歯に生え変わっていない乳歯のある場合、及び歯科矯正などを行っている場合もあるので、専門医に相談することをお勧めする。また歯型を取っての作成は、金銭的な問題もあるのでプレーヤー・保護者の判断に委ねる事とする。(推奨)

- g. プレーヤーは試合中ヘッドギヤを着用しなければならない。(義務)
- j. シューズは一体成型ゴム底のもの、ただし鋭い形状の部分や隆起している部分がないものであること、スタッドの取り替えられるものは禁止する。(禁止)

第5条 試合時間

1. 試合時間【Original】

20分ハーフ以内（1日の試合総時間は原則60分以内とする）

いずれも試合間隔は環境に配慮して十分な休息時間をとらなければならない。なお、トーナメントで引き分けの場合でも、試合を延長してはならない。

2. ハーフタイム

ハーフタイム後、サイド交換をする。休憩時間は各協会主催の試合規定に準ずる。

11. その他、試合時間に関する規則【Original】

1日に複数ゲームを行う場合、大会運営上の支障も考えられるがプレーヤーの健康管理上、プレーヤーが1日にプレーできる時間の上限を設定する。

試合中 試合を行う方法

第8条 得点

1. 得点の方法と点数

- a. トライ、または、ペナルティトライ5点
- b. コンバージョン2点

【トライ】

2. 攻撃側のプレーヤーが、以下の行為をしたらトライとなる

- a. 相手側のインゴールにおいて、最初にボールを相手側のゴールポスト、または、パッドにグラウンディングした。
- b. スクラム、ラック、または、モールがゴールラインに到達したときに、最初にグラウンディングした。
- c. ゴールラインの手前でボールがタックルされ、プレーヤーの勢いでそのまま地面を相手側のインゴールへと進み、プレーヤーがボールをグラウン

ディングした。

- d. 相手側のゴールライン付近でタックルされ、プレーヤーがすぐに手を伸ばし、ボールをグラウンディングした。
- e. タッチ、または、タッチインゴールにおいてボールを持っていない状態で、相手側のインゴールにあるボールをグラウンディングした。

【コンバージョン、ペナルティゴール、ドロップゴール】【Original】

各主催協会の試合規定に準ずる。

ゴールポストの有無によっては、コンバージョンを適用する。(価値：2点)

第9条 不正なプレー

30. 危険なプレー、不行跡【Original】

- a. 防御の際に、相手をしっかりバインドせずに振り回す行為。
- b. ボールを持っているプレーヤーをチャージしたり、突き倒したり、あるいはタッチラインの外に突き出したりする行為。
- c. フェンドオフ（腕を横に振り、相手を払い除けるプレー）。
- d. モール・ラックを崩す行為。
- e. 頭部を相手に打ち付けるような姿勢で突進する。
- f. 安全が確保できないような体勢でボールを拾う行為。
- g. 相手に怪我をさせるような行為。
- h. 地上にあるイーブンボールを相手陣に強く蹴り込む行為。

これらの行為は、実際に起きた場合だけではなく、その危険性が予見されればファウルプレーである。レフリーはアドバンテージを適用することなく速やかに試合を停止する。

判定に対する異議、相手の反則のアピール、相手への礼を失した言動等、スポーツマンシップを損なう行為は厳禁である。

罰： ペナルティキック

31. コーチについて【Original】

- a. 試合中、コーチは定められた区域内に位置し、プレーヤーに対して指導的な指示、助言を行える。ただし、子どもの自主性、判断力養成の観点から、人格を尊重した言葉で指導を行うこと。またレフリーの判定に異議を唱えたりしてはならない。上記のような言動が見られた場合、レフリーは、試合を停止しコーチに注意をする。それでも改善が見られない場合、そのコーチを退場させることができる。この場合の退場とは速やかに競技場を離れることである。
- c. コーチの不行跡により試合が停止した場合、試合再開は、スクラムで行い、プレーの停止が命じられたときにボールを保持していた側がボールを投入する。レフリーはコーチに注意以上の処分を与えた場合、試合終了後

速やかに主催者にその旨を報告する。

試合中 フィールドオブプレーについて

第12条 キックオフと試合再開のキック

【タップキックについて】【Original】

- ミニラグビーにおけるタップキックは、ボールを地面に置き、手を使わず足だけでボールに明確に触れる事である。
- すべてのペナルティにおいて、反則を犯さなかった側はタップキックによってプレーを再開する。その際、相手側は反則のあった地点（または低学年のキックオフ・ドロップアウトの地点）からゴールラインに平行して少なくとも5メートル下がる。

【得点後のキックオフ、および、試合再開のキック】【Original】

- キックオフはハーフウェイラインの中央から行う。
- 得点後のキックオフは、得点した側のチームがハーフウェイラインの中央、またはその後方から行う。
- キックオフは相手側の5メートルラインに達しなくてはならない。達しなかった場合はハーフウェイライン上中央のスクラムで再開する。ボールの投入はキックをしなかった側が行う。

【タッチダウン後の試合再開のキック】（10m地点でのドロップアウト）

ドロップアウトは10メートルライン上あるいはその後方の任意の地点から行う。

試合中 試合の再開

第18条 タッチ、クイックスロー、およびラインアウト

クイックスロー 【Original】

クイックスローは認めない。

キック 【Original】

ダイレクトタッチは10メートルライン内からのみ許される。10メートルラインの外からのキックが直接タッチに出た場合は、キックした地点で相手側にスクラムが与えられる。

【ラインアウトの形成】【Original】

ラインアウトは以下のように行う。なお、ラインアウトにおけるジャンパーに対するサポーターングプレーは禁止とする。

- ボールがタッチになった場合、ラインアウトによって試合を再開する。
- ボール投入は、ボールがタッチになった地点から行う。ただし、ゴールラインから5メートル以内ではラインアウトは行わない。
- ラインアウトに並ぶプレーヤーは1チーム2人である。先頭のプレーヤーはタッチラインから3メートル以内に立つてはならない。最後尾のプレーヤーはタッチラインから8メートルを越えて立つてはならない。
- ボールを投入するプレーヤーの相手は、ラインアウトに近接して、タッチラインから3m以内の位置にいないといけない。
- 双方のプレーヤーの2つのラインの間には明確な空間（1m）がなくてはならない。
- ラインアウトが終了するまで、ラインアウトに参加していないプレーヤーはラインオブタッチから少なくとも5メートルは下がっていないといけない。
- ボールが8mを超えて投げ入れられた場合、投入を再びやり直す。

【ラインアウトの開始と終了】【Original】

ラインアウトは次の場合に解消する。

- ボールをもったプレーヤーがラインアウトの列から離れたとき。
- ボールまたはボールをもったプレーヤーが3mラインとタッチラインの間、あるいは8mラインを越えて移動したとき。
- ラインアウトでモール・ラックができた場合、その密集に参加しているすべてのプレーヤーの足がラインオブタッチを越えて移動したとき。
- ラインアウトの列から自陣方向にパス・キック・タックルされたボールにハーフバック役のプレーヤーが触れたとき。

第19条 スクラム

【スクラムの形成】【Original】

スクラムからの「キャプリー・チャージ」に相当するプレーを罰則対象とはしない。これは、攻撃側にも、スクラムの最後尾から3mのオフサイドラインが設けられているためである。したがって、このようなプレーは起こりえず、起きた場合はオフサイドの反則となり、相手にペナルティキックが与えられる。

- スクラムはフロントロー3人で形成される。
- フロントローのうち、中央のプレーヤーをフッカー、その両側のプレーヤーをプロップという。
- フッカーは味方の両プロップの腕の上からその身体に腕をまわして、しっかりとわきの高さか、またはその下をつかまなければいけない（いわゆるフッカーのオーバーバインドの組み方。肩口は脇の高さとは認められ

- ない)プロップも同じようにフッカーをつかまなくてはいけない。
- d. スクラムを組み合う際、相対する双方のフロントローと目を見つめさせ、双方のフロントローは左右の足の位置をフラット（前後しない）にして、腰を落とし組み合う準備の姿勢を取らせる。レフリーはこの姿勢を【クラウチ】のコールで確認し、【タッチ】のコールで相手の上腕に軽く触れさせる。【ホールド】のコールで相手をつかんだまま静止状態を維持させ、その後穏やかに組み合う【エンゲージ】。
- その際、お互いのフロントローのうち、左プロップは、左手を相手フロントローの右腕の内側に、右プロップは、右手を相手フロントローの左腕の外側になるようにして、相手フロントローのジャージーの背中または脇をつかむ。
- e. すべてのプレーヤーが頭と肩が腰より低くならないようにまっすぐ組む。「ノンコンテストスクラム」ではあるが、お互いの体重を支え合うように組まなければならない。
- f. スクラムを形成するプレーヤーは、スクラムが終了するまでバインドしていなければならない。

【スクラムにおけるその他の制限】【Original】

- a. スクラムは「ノンコンテストスクラム」であり、ボールの取り合い、押し合いはなく、ボール投入側が必ずボールを獲得するが、ハーフバックは、スクラムの中央に、まっすぐボールを投入しなければならない。ボール投入側が誤って相手側にボールを蹴ってしまった場合は、そのままプレーを続ける。フッカーは、故意にボールを相手側に蹴り出したり、自チームオフサイドラインまでボールを搔いてスクラムを終了させたりしてはならない。
- b. スクラムが組まれるとオフサイドラインが生じる。
- (1) スクラムに参加しないプレーヤー（ハーフバックを除く）のオフサイドラインは、スクラムを組んでいる味方プレーヤーの一番後方の足から3メートル下がったゴールラインに平行な線である。
- (2) スクラムにおいてボールを投入しない側（防御側）のハーフバックのオフサイドラインは、スクラムを組んでいる味方プレーヤーの一番後方の足を通りゴールラインに平行な線である。ただし、スクラムから1メートル以上離れるプレーヤーはハーフバックではなく、バックと見なされる。その場合のオフサイドラインは上記『(1)』が適用される。一旦、『(1)』で定められたオフサイドラインに下がったハーフバックはスクラムが解消されるまで、そのオフサイドラインを超えてプレーすることはできない。

【例外】

防御側がボールを獲得した場合、『(1)』まで下がった防御側のハーフ

バックは、獲得したボールをプレーするためにオフサイドラインを超えてプレーすることが許される。

- (3) オフサイドラインはスクラムが終了するまで解消されない。スクラムはボールを獲得した側のハーフバックがボールを触った時点で終了する。

【例外】

スクラムに投入されたボールが、スクラムに参加していないプレーヤーのオフサイドラインに偶然達した場合、スクラムは終了する。

- (4) スクラムへのボールの投入は、ハーフバックが行う。ハーフバックは、(3)【例外】の場合を除き、いかなる場合でもスクラムから出てくるボールを扱う最初のプレーヤーでなければならない。
- (5) ハーフバックは、あたかもボールに触れたかのようなそぶりやボールに触れずに時間を空費する行為をしてはならない。

第20条 ペナルティキックおよびフリーキック

【ペナルティキックおよびフリーキックが与えられるマークの地点】【Original】

- a. すべてのペナルティにおいて、反則を犯さなかった側は相手側が反則を犯した地点からタップキックによってプレーを再開する。その際、相手側は反則のあった地点からゴールラインに平行して少なくとも5メートル下がる。
- b. 反則の地点が相手側ゴールラインから5メートル以内の場合は、マークは反則の地点を通る線上、ゴールラインから5メートルの地点でタップキックを行う。
- c. フリーキックも同様である。

附記

【実施時期について】

平成 30 年改訂版 U-12 ミニラグビー競技規則は、原則として平成 30 年 4 月 1 日から適用します。